

教授内容や学生の履習法について相違がみられるのは当然であろう。既成の知識量についていえば、だいたい前者のほうが多いことはいうまでもない。しかしながら知識欲、勉学意欲といった点で考えると、必ずしも前者が後者よりまさっているとはいえない。まだ経験が少ないのではっきりとはいえないけれど、むしろ後者のほうが熱心に勉学する意欲が大きいのではなかろうかと思われるときがしばしばある。こうしたことについても深い配慮が必要かもしれない。学生が視野を広くして、勉学意欲をもやすように、生活を指導したり環境を改善することに関係者のいっそうの努力をお願いするしだいである。

何といても学校の授業は、実習はもちろん講義にしても、教師だけで行なうものではなく、教師と学生との相互協力作業というべきで、両者の呼吸がよくあわなければ効果は少ない。その点からいっても学生の知識の程度、希望している点、興味を持っている点を知るのは最も必要なことで

ある。いわゆる“人を見て法を説け”であって、学生が受け取ろうとする気構えがなければ、教師の一人芝居になって効果は少ない。時間数が少ないため、ややもすれば詰め込みになりやすいので十分反省すべきだと思う。

おわりに

種々まとまりのないことを述べたが、このようなことは本誌の読者各位には百も承知であって、“釈迦に説法”であったかもしれない。こうした拙文でも“化学の教育の立場より見た点”であることに注意して読んでいただき、私見が何らかの示唆になれば幸いだと思う。本稿の趣旨よりして実習のテーマ、用具、経費などの紹介、説明など細目になることは割愛して別の機会にゆずることにした。批評、所感などをお知らせいただき、お互いの教育の向上に資したいと考えるしだいである。

(福島県立医大教授)

編集デスク <22>

先日、京都へ編集会議に出張して異常を感じたので帰京後ある病院に入院して精密診断を受けた。

2週間余の病院生活を体験したわけだが、病院の中に患者として入院してみると、外部から考えていたのとはよほど様子が違う点がいくつかある。

まず第1に感じたことは、ドクターもナースも大層忙しいということである。とくに、ナースは現在どここの病院でも手不足に悩んでいるから、その点ではむしろドクター以上にきりぎりまいをしているということが言えるであろう。そのような悪い条件の中で、よくチームとしての看護の実をあげるように努力している模様をつぶさに見ることができ

た。このことは、ふだん編集の立場で、外部からの取材の立場や、執筆者として接しているナースの人たちに対するのとは観点が違った別の見方ができたわけである。

病院にも経営予算があるから、そのわく内でことを処理しなければならず、その中で最も効果をあげるた

(入院の体験)

——長谷川 泉——

めにはどうしたらよいかが、真剣に考えられている。現在の諸物価の中で、ほかの物価に比して異常に安すぎるのは医療費と本の値段である。これは戦前との比較であるが、客観的な事実である。その安い医療費の中で、公的医療機関と私的医療機関とでは、おのずから経営の方針や具

体的な方策が違うであろうが、とにかく、なかなか苦しいやりくりをしていることは事実である。いろいろの工夫がこらされている。

患者は病気を持っている人間であるから、病気が直れば病人も直るしくみであるが、そのところが、カレルのいうように人間という複雑な存在であつて、簡明單純に割り切れないところである。サイコ・ソマティクスはそこに存在理由を持つ。理論的に体系づけなくても、そんなことは昔から考えていたといえ、それまでであるが、近代はより複雑な心理と社会機構のメカニズムの中での人間、そして病者が考え直されている。精神身体医学の将来が、拡大してゆくことは否定し得ないことのようにである。いずれ、この入院の体験は、私なりにいろいろの面で生かしてゆきたいと思つている。